

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安藤 由美	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では、受講生の主体的参加を促す。 ・演習では、履修生に対する個別面談・指導を充実させる。 ・WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させる。 ・研究業績の授業への反映させる。 ・修論指導。 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では、受講生に発言を求め、またはグループディスカッションを取り入れるなどして受講生の主体的参加を促ように務めた。 ・演習では、履修生に対する個別面談・指導を行った。 ・WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させた。 ・研究業績の授業への反映させた。 		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の家族変動についての実証分析と論文執筆 ・戦争体験ライフストーリーの分析と論文執筆 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験ライフストーリーの分析をライフコース分析に代えて行い、共著への掲載論文を執筆した(岩上真珠ほか編著『変容する社会と社会学』学文社、2017年)。この論文の執筆に多大な労量を要したため、当初計画していた沖縄の家族変動についての実証分析と論文執筆は見送った。 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会学会編集委員会委員 ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会学会編集委員会委員(特集『沖縄と社会学』の企画編集を担当) ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 		
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学科長としての活動 ・学部内各種委員としての貢献(教育委員会委員) 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学科長としての活動 ・学部内各種委員としての貢献(教育委員会委員) 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		稲村 務	所 属	法文学部 人間科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	グローバル人材を養成すべく、学生の英語、中国語のスキルを上げ、異文化に対する理解を深めさせる。また、学生の進学にも対応できるよう、社会人類学の授業本来のアカデミズムを取り戻すべく、正常化のための大幅な改善を行う。		0.25	実習では中国語を事前学習として教え、現地から帰った後も学生と一緒にテーブ起こしをするなど学生のスキルアップに努めた。民族誌の授業ではB.MalinowskiのWestern Pacificを学生と一緒に講読し学生の英語のスキルアップに努めた。本年度の基礎演習とアカデミックリテラシーでは研究倫理に重点をおいたFDとカリキュラムを実施し、改善がみられた。	
研究	0.35	サントリー文化財団研究助成に応募している。東京外国語大学、国立民族学博物館の共同研究員として研究活動を行っており研究発表を行う。基盤A(代表:塚田誠之)の科研費の研究分担者として中国の調査を行う。学会誌1、紀要論文7(内査読3)、国際学会1、国内学会発表1、書評1など出版を予定している。		0.35	国際シンポジウム1を含む共同研究会に参加した。台湾、雲南、ラオス、奄美でのフィールドワークを行い、東京、台湾などで文献収集をした。紀要論文2、査読付き論文1(翌年刊行予定)、シンポジウムの内容と研究エッセイ1、書評1を刊行した。国際沖縄研究所のシンポジウムを企画し行った。招待講演1、研究会コメンター1。	
社会貢献	0.20	台湾実習での国際交流、学会発表、などの成果発表を通じて市民に還元したい。また、英語の論文を執筆することで国際的なアピールに努める。科学研究費を獲得できれば市民にも大きく貢献できる企画を考えている。		0.20	2017年2月18日 シンポジウム「グローバル化のなかの伝承/伝統的知識—柳田国男論、ABS法、フォークロア、そして沖縄のこれから—」主催 国際沖縄研究所を行い沖縄県の知的財産としての「伝承」をいかに保護活用していくかについて最新の議論を提供した。	
管理運営	0.10	歴史学・人類学領域主任、図書紀要委員、進路支援委員として各種の調整役にあたっている。		0.10	博士課程広報推進委員、歴史学・人類学領域主任、図書紀要委員、進路支援委員として各種の業務を遂行した。	
	0.10	4年生就職率100を目指す。		0.10	就職率100%を達成した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				公開してよい		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		寺石 悦章	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.60	新規授業の準備はもちろんだが、前年度から継続している授業についても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行う。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行う。			0.60	新規授業、前年度から継続している授業のいずれについても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行うことができた。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行った。		
研究	0.20	研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆するため、数年かけて基礎的な研究を行う。			0.20	論文を2本執筆した。また研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆した。		
社会 貢献	0.15	教員免許更新講習の講座を計3日間(定員150名)行う。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会を継続する。			0.15	教員免許更新講習の講座を計3日間(定員150名)行った。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会を継続している。		
管理 運営	0.05	教育委員・自己点検委員などの業務を適切に遂行する。			0.05	教育委員・自己点検委員などの業務を適切に遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		池上 大祐	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	①共通教育では、歴史的思考力の涵養をめざす上で、学生自らの主体的な取組ができるような内容を組む。②専門教育では、学生との対話を重視し、双方向授業および研究指導システムの構築を目指す。③学外の研究会や学習会等、学生に知的交流のできる空間を提供し、専門性の深化・コミュニケーション能力の向上を図る。④学生の希望する進路に応じたキャリア支援を進める。			0.40	①共通教育では歴史的思考力の涵養をめざし、史料を読み解釈させるワークシート作業を導入した。②専門教育では、ゼミ生による共同研究活動を本格化させ、「宮古島のなかの世界史」というテーマでの研究を行った。また卒業論文執筆に向けた議論を行った。③上記の共同研究の成果について、九州西洋史学会若手部会にて報告するなど学外における研究活動を推進した。④県庁主催の県外インターンシップについての情報を学生と共有した。		
研究	0.30	①H28年度科学研究費若手研究(B)(研究代表者)に採択されたことから、本研究のテーマであるアメリカのグアム統治戦略を、土地接收政策の観点から分析する。②科研費基盤研究(B)の研究分担者として参画することになり、ここではグアムにおける戦争記念公園の建設をめぐる記憶の政治について研究を行う。			0.30	①夏期にワシントンDCに滞在し、国立公文書館にて資料調査をおこなった。②春季にグアム大学ミクロネシア地域研究センターを訪問し、史料調査を行った。これらの成果について、2017年6月3日のアメリカ学会にて報告することが決定している。		
社会 貢献	0.20	高大連携歴史教育の観点から、沖縄および全国の高等学校教員との交流および教育実践の収集・データベース構築に努める。			0.20	高大連携歴史教育研究会の会報編集委員長として、会報第2号、3号を編集・発刊し、全国の高校教員や大学教員との意見交換の橋渡しを担った。		
管理 運営	0.10	専攻内の委員業務を責任もって遂行する。			0.10	専攻内の委員業務を責任もって遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡久地 健	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.70	(1)授業の充実に努める。そのために下記「研究」にも努める。(2)学生が気軽に相談に来れるような雰囲気作り努める。		0.70	目標をほぼ達成できたと考えている。ただし、「地誌学概論Ⅱ」は、現場を踏んだ教材作りが十分になされなかった点を反省点としたい。			
研究	0.20	現在得ている科研など外部資金を有効に活用し、論文作成など成果を確実に作る。目標は、論文(書籍の分担執筆を含む)4本。		0.20	論文1篇、研究ノート1篇、短報1篇、単著1冊(『サンゴ礁の人文地理学』, 362頁, 古今書院, 2017年3月刊行), 計4本で、目標をほぼ達成できたと考えている。			
社会貢献	0.05	積極的な社会貢献をしない。ただし要請があった場合は、本務に支障を来たさない範囲で考える。支障をきたすと判断される場合は、決して引き受けない。		0.05	沖縄県自然環境審議会委員、名護市史専門委員を引き受け、ほぼ目標を達成できたと考えている。			
管理運営	0.05	委員など責任をもって任務を遂行する。教授会を無断欠席しない。		0.05	ほぼ目標を達成できたと考えている。ただし、出張が多くあり、教授会を数回休んだ点を反省材料としたい。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浜崎 盛康	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学部長として管理運営にウェイトをおくため、授業を減らし学生支援はゼミ等で学生の相談を行う。			0.25	学部長として管理運営にウェイトをおき、授業を減らし学生支援はゼミ等を中心に行った。		
研究	0.25	学部長として管理運営にウェイトをおくため、研究は科研の分担者としての役割と、これまでの研究のまとめを中心に行う。			0.25	学部長として管理運営にウェイトをおき、研究は科研の分担者としての役割をと、これまでの研究のまとめを中心に行ったが、関連してコンピテンシーに関する研究にも取り組んだ。		
社会貢献	0.00	今年度は直接的な社会貢献は控える。			0.00	今年度は直接的な社会貢献は控えた。		
管理運営	0.50	学部長として、管理運営に適切に当たる。特に今年度は学部改組の道筋を付けることを目標とする。			0.50	学部長として、管理運営に注力した。特に今年度は学部改組の道筋を付けることが出来た。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		本村 真		所 属		法文学部 人間科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.25	専門科目(児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文等)を担当する。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得させる方法の向上を目指す。				0.25	専門科目(児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文等)を担当する。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得させる方法の向上を目指す。また現場実習の受け入れをスムーズに行ってもらうための関連施設における研修(スーパーバイズ研修等を含む)や沖縄県振興審議会等の福祉関連会議への対応にも時間を割いた。				
研究	0.25	本年度より採択された科研費(挑戦的萌芽研究)による研究実施を通して、島嶼地域の児童養護施設職員のストレスマネジメントシステム構築に向けた研究を推進する。国際沖縄研究所と共同で法文学部が実施する概算要求研究プロジェクトにおいてユニットリーダーとして尽力するとともに、人文・社会科学分野を中心とした共同研究の実施体制の構築を模索する。また、JSTやRISTEXが公募する社会的課題解決型の外部資金の獲得も模索する。				0.25	本年度より採択された科研費(挑戦的萌芽研究)による研究実施を通して、島嶼地域の児童養護施設職員のストレスマネジメントシステム構築に向けた研究をとして宮古島市における実践研究型研修会を2度実施した。また、国際沖縄研究所と共同で法文学部が実施する概算要求研究プロジェクトにおいて島嶼地域の活性化に向けた実践研究として、全国の島嶼地域住民を対象とする研修会を喜界島、および那覇市において実施した。				
社会貢献	0.20	上記の概算要求プロジェクトによる国際シンポジウムや合宿形式の研修会を実施することで、研究成果の地域社会への貢献をはかる。加えて、沖縄県福祉サービス第三者評価事業推進委員会への参加や、児童養護施設等におけるスーパービジョン、市町村にける各種支援活動への参加、子どもの居場所学生ボランティアセンター運営等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与する。				0.20	上記の概算要求プロジェクトによる合宿形式の研修会を実施することで、研究成果の地域社会への貢献をはかる。加えて、児童養護施設等におけるスーパービジョン、市町村にける各種支援活動への参加、沖縄県振興審議会や子どもの貧困対策有識者会議(座長)等の沖縄県の関連会議への参加、子どもの居場所学生ボランティアセンター(センター長)運営等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与した。				
管理運営	0.30	学長補佐(研究担当)として研究推進機構や関連タスクフォース、産官学連携推進機構、琉球大学コミュニティキャンパス事業等の全学的な取り組みにたずさわる。加えて、大学コンソーシアムにおいて新たに設置する「子どもの居場所学生ボランティアセンター」の運営にも関与する。法文学部内においては「将来計画委員会」や「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む				0.30	学長補佐(研究担当)として研究推進機構や関連タスクフォース、産官学連携推進機構等の全学的な取り組みにたずさわる。加えて、大学コンソーシアムにおいて新たに設置する「子どもの居場所学生ボランティアセンター」においてセンター長として立ち上げ時期の各種整備を含めて運営にも関与した。法文学部内においては「将来計画委員会」において学部改組のための作業に関わると共に、「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む委員会活動等に積極的に参加した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野入 直美	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	社会学研究VI(働くこととつながることの社会学Ⅱ)では、大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁」地域志向教育推進経費を活用し、NPOとのコラボを通じて働くこととつながることの課題に取り組むことのできる人材育成を行う。		0.30	社会学研究VI(働くこととつながることの社会学Ⅱ)では、大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁」地域志向教育推進経費を活用し、NPOとのコラボを通じて働くこととつながることの課題に取り組むことのできる人材育成を行った。			
研究	0.40	科研基盤(C)代表者として研究を統括する。その他の科研の分担者として研究を遂行する。『社会学評論』沖縄特集にアメラジアンについての論考を寄稿する。		0.40	科研基盤(C)代表者として研究を統括した。その他の科研の分担者として研究を遂行した。『社会学評論』沖縄特集にアメラジアンについての論考を寄稿した。			
社会貢献	0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援する。沖縄県による補助事業を統括する。		0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援した。沖縄県による補助事業を統括した。			
管理運営	0.10	セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の予防と発生後の対応に取り組む。		0.10	セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の予防と発生後の対応に取り組んだ。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木 規之	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、アジア社会学特論・演習(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行う。とくに、修士2年次、博士2年次の留学生に対する指導を十分に行う。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行う。			0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、比較地域文化特別研究(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行った。とくに、修士2年次、博士2年次の留学生に対する指導を十分に行った。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行った。		
研究	0.25	平成27年度に採択された文科省科研費(C)「ホスト社会沖縄と日系人-文化資本に基づくネットワークとその継承-」の研究を行う。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)海外「東北タイの開発と市民社会形成—公共圏・社会関係資本・プラチャーコム—」の研究成果を出版し、その成果を発展させて、平成29年度からの新規の科研費などの獲得をめざす。			0.25	平成27年度に採択された文科省科研費(C)「ホスト社会沖縄と日系人-文化資本に基づくネットワークとその継承-」の研究を行い、第89回日本社会学会において発表した。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)をもとに、コンケン大学より共編著“Civil Society Movement and Development in Thailand and Lao PDR : Public Sphere, Social Capital and Prachakhom”を刊行した。		
社会貢献	0.05	タイ・ラオスに対する国際貢献を行う。タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授としても国際貢献を行う。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たす。			0.05	タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授として国際貢献を行い、コンケン大学では8-9月にVisiting Scholarとして教育・研究を行った、また、タイ・ラオス(アジア)については、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たした。		
管理運営	0.20	大学院人間社会領域主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行う。また、全学の国際交流委員および国際交流推進専門委員会座長として管理運営に参加する。			0.20	大学院人間社会領域主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行った。また、全学の国際交流委員および国際交流推進専門委員会座長として管理運営に参加した。とりわけ、琉球大学ラオス海外拠点の設置に尽力した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木 良	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 複眼的な視点を養成するため社会福祉学と共に、人文社会科学の視点から授業を行う 生活問題解決力を養成するため、生活問題に関わる具体的事例を検討する授業を行う 講義授業でもグループディスカッションや学生の発表を取り入れ、対話型の授業を行う。 近年の日本及び海外の調査研究の成果を授業内容に反映させる。 実習・演習において学生の個々の目標到達に向けて個別指導を重視する。 社会福祉士国家試験対策についての問い合わせに対しては積極的に対応する。 社会福祉現場での就職相談があれば丁寧に対応する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉関連制度の諸課題について社会学や障害学など幅広い見地からの解説と議論を行った。 社会福祉士演習・実習指導科目だけではなく講義科目においても事例のアセスメントを重視した。 演習科目だけではなく講義科目でも学生間の議論と学生による発表を取り入れ対話型の授業を行った。 研究の成果である障害者の地域生活や相談援助の実際を紹介し、学生と共に検討した。 演習・実習では個々の学生の特徴や関心に応じて自らの問題関心を掘り下げられるように助言した。 社会福祉士国家試験に向けての特別講義を開催したり、適宜相談に応じたりして、積極的に対応した。 福祉事務所でのケースワークやNPO法人での仕事のメリット・デメリットについて学生に説明をした。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 日本社会福祉学会あるいは障害学会へ査読付き論文の投稿 日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員の継続 グループホーム学会沖縄大会の実行委員として活動 科学研究費助成事業(若手研究B)(基盤C)における研究の遂行のため北海道及びカナダ・スウェーデンにおけるフィールドワーク調査を実施する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 日本社会福祉学会及び障害学会の学会誌において査読付き論文の掲載が決定した。 日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員として論文の査読を行った。 障害学会九州沖縄部会研究会の研究会開催のための準備を行った。 科学研究費助成事業(若手研究B)(基盤C)においてカナダ・スウェーデン・日本における実態調査を行った。 			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県手をつなぐ育成会におけるシンポジウムにシンポジストとして参加 障害学研究会九州沖縄部会に参画 NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターへの連載 沖縄県社会福祉協議会の評議員として活動 県民への障害者の権利についての啓発活動を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 全国手をつなぐ育成会の神奈川大会の分科会にてシンポジストとして発表した。 沖縄県自立生活センターイルカ主催の「インクルーシブ教員 in Okinawa」に実行委員として参加 NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターにおいて沖縄や福祉のテーマを中心に掲載を継続している。 沖縄県社会福祉協議会の評議員として活動した。 沖縄県社会福祉法人わかたけ福祉会の評議員として活動した。 			
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 全学及び学部内の各種委員会の委員としての役割を適切に遂行する。とりわけ障害学生支援室における兼務教員として学内における障害学生支援の推進のために尽力する 専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献する。 所定の入試関連業務を遂行する。 社会福祉士実習関連業務を適切に遂行する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 全学及び学部内の各種委員会の委員、及び障害学生支援室の兼務教員として活動を積極的に行った。 専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献した。 センター試験を含めて所定の入試関連業務を遂行した。 厚生労働省への変更届の提出など社会福祉士実習関連業務を適切に遂行した。 			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			